

看護専門科目	広域発展看護学					
看護学科	必修	1 単位	講義	平成30年度	前期	4 年次
科目名	国際看護論 International Practice of Nursing and Healthcare					
担当教員	◎高橋里沙 大谷香織					
目的	国際看護における基礎知識を習得し、保健分野における健康課題とグローバル化の進展による健康格差について理解を深める。また、世界の人々の生活環境や社会、文化、経済的背景を考察し、広い視野をもって保健医療と看護の役割を考えることができる能力を養う。					
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 国際保健及び看護に関連する国内外の機関やその役割について理解する。 2. 国際医療協力活動における看護職の専門性、役割、課題について理解する。 3. 世界的な健康分野の課題を理解し、国際貢献や看護のあり方について考察する。 4. 国内における、異文化背景をもつ対象者が直面する健康問題を理解し、多文化共生と看護の役割について考察することができる。 					
他科目との関連	文化と暮らし、環境と暮らし、栄養学、災害看護					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	レポート	課題レポートの成績				0.8
	その他	感想ノート/討議等授業への取り組み				0.2
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	浦田喜久子、小原真理子編、「災害看護・国際看護」医学書院					
参考資料	柳澤理子, 国際看護学 看護の統合と実践 PILAR PRESS, 2015年 南裕子, 「国際看護学: グローバル・ナーシングに向けての展開」中山書店, 2013年 近藤麻, 「知って 考えて 実践する 国際看護」医学書院, 2011年 青山温子, 喜多 悦子, 原 ひろ子「開発と健康—ジェンダーの視点から」有斐閣, 2001年 スー・チュラリー、勝井伸子、渡辺知花, 「異文化理解とヘルスケア」日本放射線技師会出版会, 2008年					
備考 (受講上注意、事前学習等)	自らの視野をグローバルに広げるためにアクティブラーニングを取り入れる。積極的な参加と学生間の活発な意見交換を期待する。第3回から6回は、担当講師の都合により順番が入れ替わる場合がある。					